

ホロカトマム川周辺の河畔林に関する所見

2011.6.11

北海道立総合研究機構 林業試験場

主査（流域保全） 長坂 有

調査目的：ホロカトマム川周辺の河畔林の現状把握

調査日：2011年5月26日

調査方法：目視による林況，立地環境等の把握。

調査結果：

1. 天然林の状況



写真-1

ホロカトマム川を下流から見ていくと，下流部はドロノキが多くハシドイも見られるなど，河川の地形区分では扇状地帯に近い河畔植生ですが，上流（標高550m付近）はトドマツ，エゾマツ，ダケカンバなどが多くなり，山地性の森林となります。丸山周辺はハルニレを主とした典型的な河畔林の林相で，ケヤマハンノキ，ヤナギ類（オノエヤナギなど），ヤチダモ，キハダ，などが見られます。また林床にクマイザサが繁茂し，トドマツの若木が見られることから，洪水氾濫の頻度は比較的少ない河畔林と考えられます（写真-1：村上氏調査のTM-1付近）。ただ，その割には直径50cmを越えるような大径木はあまりみられないので，伐採後の二次林と思われ，林相がやや貧弱な感じがします。上流部の林道脇は伐採後に天然更新したと思われる，20-30年生（推測）のケヤマハンノキ，シラカンバ一斉林が目につきます。

2. 伐採地（丸山南）の状況

伐られた伐根（切り株）をみると，ハルニレ，ケヤマハンノキ，ドロノキなどからなる30-40年生の河畔林であったことが推察できます。もっとも太い，直径50cm前後のヤチダモ（写真-2）は，年輪から70年生前後であることがわかりましたが，一時成長が悪かった時期が認められました。また，萌芽した若い幹にはがんしゅ病のような瘤があり，かつて立地環境の変化（悪化）などがあった可能性があります。



写真-2

当箇所は支流の合流点ですが、二股の間は草地として利用されており、戦前頃の地形図（図-1）では家屋があることから、開拓時代から利用されてきた場所のようです。伐採箇所周辺は湿地状に水がしみ出し、スゲ類、ネコノメソウなどが生えることから、排水が悪いと思われます。沢を横断する林道などを敷設すると、地下水の移動がさまたげられ、このような湿地環境になり、生えていた樹木が枯れることがあります。ここは、（草地造成や林道による天然河畔林への影響の詳細は不明ですが）樹木の生育場所としてはあまり良くはない立地といえます。

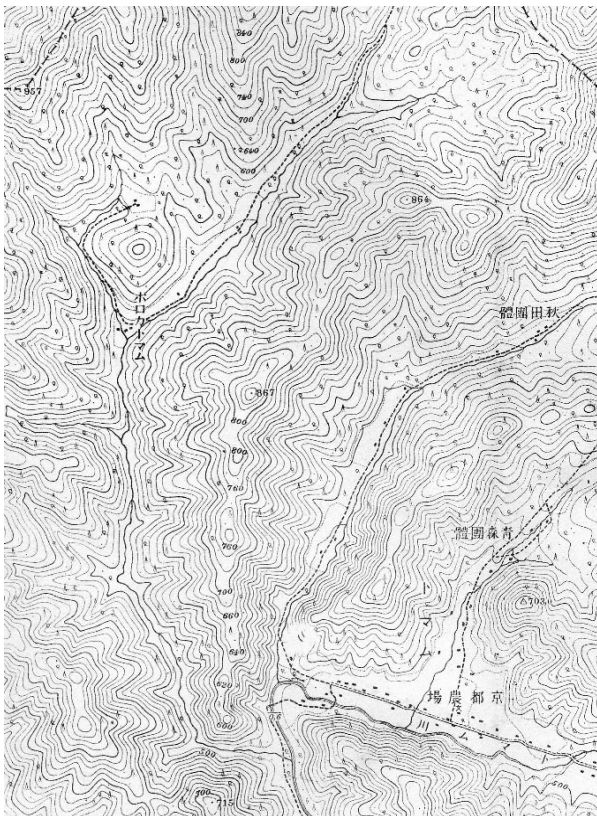


図-1

3. 伐採地への植栽について

上記のように水はけが悪い場所なので、適樹種としてはヤチダモ、ケヤマハンノキ、ドロノキ、ヤナギ類などが勧められます。このあたりの代表樹種であるハルニレも可能とは思われ、簡易な溝きりなどにより排水性を高める必要があります。造林樹種であるアカエゾマツは湿地にも強い樹種ですが、周辺の天然林相からみるとやや不自然であり、経済林として成長が期待できる立地ではないという印象です。（水はけがそれほど悪くない場所ならば、周辺に見られる広葉樹はいずれも利用可能と考えます。）

植栽の方法として、林業試験場で提案された群状混植がありますが、詳しくはHPに公開している文献をご覧ください（下記参考：群状混植に関する文献）。基本は成長が遅い樹種が、早い樹種に負けないように、同樹種を群で植えることにより、種間競争を減らし、最終的（50－100年後）に多様な樹種の混交林を目指すものです。

この方法はまだ完全に確立されたものではなく、今後も経過をみながら改善していく余地があると思われれます。私的見解としては、風散布型の樹種（これまで紹介してきた樹種）は天然でも群で更新してくるため、理にかなっていると思います。キハダやサクラ類など鳥散布型の果実をつける樹種は本来、集団では発生せず、実際に林試の試験地ではキハダの生残が悪いことが少々気になっています。

当地は面積が狭いことから、先駆樹種であるケヤマハンノキ、ドロノキ、ヤナギ類は少なめにして線状に植栽し、ハルニレやヤチダモなど極相的樹種を多めにするといったことも提案できます。これは先駆樹種を前成林として防風柵のように利用する方法と似ています。また、川沿いや水はけの悪い場所にケヤマハンノキやヤナギ類、微高地にハルニレといった、立地的な植え分けをしてもいいかもしれません。これは、川からの比高に応じた河畔性樹種の天然分布に則した方法です。ドロノキ、ヤナギ類は現地へのじか挿し（さし木）も可能ですが、そのためにはササや草本をなるべく除去（もしくは刈払い）する必要があります。

現在、広葉樹造林にとってもっとも問題となっているシカの食害については、今のところ電牧（電気牧柵）を立てるしか防ぐ手立てはないのではないかと思います。特にハルニレはシカのもっとも好む樹種であるため、壊滅的被害をうけることもあります。（予算的に厳しければ、ハルニレの群だけ鉄条網の柵で囲ってみるとか試してみたいかでしょうか。）

参考：群状混植に関する文献

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/topics/pdf/4402.pdf>

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/topics/pdf/2102.PDF>

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kiho/pdf/kiho56-2.pdf>

http://www.fri.hro.or.jp/forest/dspf_i.asp